

群馬県における倉庫業の動向

群馬経済研究所 研究部副部長 伊勢和広

調査のポイント

電子商取引が拡大するなかで、多くの消費者を抱える首都圏では「多品種・少量」の出荷を行う「物流拠点」の役割を担う大型倉庫が増えたと思われる。一方、企業同士の取引（いわゆる BtoB）関連の需要が大きい本県の倉庫業にはどんな動きが出ているだろうか。本調査は、群馬県倉庫協会会員企業他へのアンケートを通じて県内の倉庫事業者の声を集約し、現在の事業環境の変化や課題等を探るものである。

要約

- アンケート結果からは、「倉庫事業」は「運輸事業他」と比べて安定推移している。
- 一方、「労働力・人材不足」「設備等の老朽化」「荷主との保管料交渉」が倉庫事業者の経営上の課題の上位を占めている。特に「荷主との保管料交渉」「設備等の老朽化」については、約半数の企業が未だ対応を開始していない。